

令和2年度、学校評価における年度末の報告

進学指導部

森下 文弥

設定目標(抜粋)

1、選抜クラスについて

- ・1年生を2クラス編成にする。
- ・学級担任、教科担任の選定について
- ・スタディサポートについて

2、看護医療について

- ・看護医療ガイダンス等を実施し、適切な進路選択を促す。
- ・看護医療の学力(専門用語、計算力等)の向上を目指す。
- ・看護体験等を促進する。

3、放課後の特別講座について

- ・講座内容を充実させる。
- ・検定や資格講座を中心に、講座の増設を図る。

4、清和大学併設校入試について

- ・入学者50名、特待生5名を目標に、受験を勧める。
- ・公務員ガイダンス等を含め、清和大学との高大連携を進める。

5、清和大学短期大学部併設校入試について

- ・入学者70名、特待生5名以上を目指す。

6、その他

- ① カリキュラムの見直しについて
- ② 進路研究(進路資料の取り寄せ、ガイダンス)の充実
- ③ 教職員の進路指導研修

点検・評価項目	自己評価	総括・意見等	特記事項
	優れている=3 適切 =2 要改善 =1		
1、選抜クラス について	3	<p>選抜クラスの編成は全学年で2クラス編成となった。進級ごとのクラス替え、再編成が通常化。</p> <p>○3年生 ・入試改革、コロナ禍など様々な要因から、進路決定に大きな影響を及ぼした。指定校入試希望者が圧倒的に増え、総合型(旧AO)や公募制推薦でも不合格者が多数。</p> <p>○2年生 ・今年度初めての試みとして2年次での進路ガイダンスを実施。熱心な取り組みが見られた。又、短縮授業、休校措置等の影響から、スタディサポートの実施ができず、独自の實力試験を実施した。</p> <p>○1年生 ・現体制として最後の学年。やはりコロナ禍の影響で、学級体制作りの遅れ、スタディサポートの実施見送りなど多くの弊害があった。3月にこれも初の試みである職業体験型ガイダンスを実施予定。</p> <p>○全学年 全学年2クラス制となったが、クラス間での實力差が大きい。2クラス制の意義を検討していく必要がある。</p>	<p>1年生の選抜クラスは、放課後の特別講座にも多数参加し、又欠席も少なく熱心に受講できている。教科担当は指名制としたが、他のクラスとの差別化は顕著に見られず、定期試験の結果は他クラスよりよいクラスが多かった。推薦入試等を控えた3年生においては、評定値が低く押さえられ、推薦基準をクリアできない者多数。次年度以降、新設される進学コースと選抜クラスの位置づけ、色分けが懸念される。</p> <p>担任との面接や話し合い、進学指導部との面談の機会は極端に少なかった。授業担当の指名制は継続したが、實力の錬成、他コースの生徒との差別化は顕著に見られていない。部内からは選抜クラスは2クラス制とし、實力の均衡をはかるべきとの意見多数。</p>

<p>2、看護医療について</p>	<p>3</p>	<p>看護医療系の進学希望者はここ数年増加傾向にあったが、今年度は、約50名の希望者で減少に転じた。夏休みを利用して看護医療に特化したガイダンスや面接指導を行い、好結果につながり、12月末日現在で、未合格者は0である。コロナ禍の影響で、看護師不足が叫ばれるが、一般教養や小論文看護専門用語など看護に特化した選択授業や放課後講座などの充実が早急な課題となっている。</p>	<p>恒例の4月のガイダンスは中止となったが、事前のアンケートでは72名の希望者がいた。夏休みの看護特別講座、面接指導を外部講師を招き実施。参加者は50名を超えた。放課後の看護教養講座は24名が受講し、熱心な取り組みを見せた。コロナ禍の影響でオープンキャンパスや見学会が軒並み中止となり、志望校の選択、決定が困難であった。ガイダンスや放課後の講座は効果があり、継続を望む声多数。</p>
<p>3、放課後の特別講座について</p>	<p>3</p>	<p>講座受講者は延べ220人となり、入試に結びつく講座に受講希望者が集まり、漢字検定や英語検定、世界遺産検定などの資格取得につながる講座はやや希望者が減少した。又、看護教養や小論文など、3年生で推薦入試や総合型選抜に向けての準備として受講する者が多く見られた。又、途中でやめてしまう者や欠席の多い者も少なく、熱心な取り組みが見られた。講師を引き受けてくれる教員の確保が難しくなっている。</p>	<p>今年度の顕著な傾向として総合型選抜(旧AO入試)や推薦入試を希望する者が増加し、特に3年生を中心として、小論文や看護教養の講座に多くの希望者があった。又、今年目立った傾向としては、例年希望者が多い1年生の受講希望者が今年は極端に少なかったことが、挙げられる。入試の多様化、大学入試の難化も踏まえて、既成の講座の見直し、新講座の開講など検討を進めていく。尚、特進ハウスからも一般のハウスの講座を受講する者が見られ、2ハウス間の積極的な交流が必要か。</p>
<p>4、清和大学併設校入試について。 5、清和大学短期大学部入試について</p>	<p>3</p>	<p>(1月15日現在) 清和大学 併設校入学者 31名 AO入試入学者 2名 計 33名 清和大学・短期大学部 併設校入学者 38名 AO入試入学者 2名</p> <p>特記事項 [大学] ・入試制度変更 書類選考・面接 ↓ 書類選考・面接・小論文・一般教養 ※奨学生は別途面接 [短大] ・入試制度変更 書類選考・面接 ↓ 書類選考・面接・実技(4択)・基礎学力 ※奨学生は別途面接</p>	<p>大学、短大ともに希望者、入学者ともに減。特進コースからは、大学・短大ともに希望者なし。入試制度の変更により併設校入試を敬遠したことが予想される。大学に関しては、オープンキャンパスや見学会を頻繁に実施し、参加者も多かったが、受験者増に結びつかなかった。短大に関しても同様で、受験制度の変更、志望理由書の煩雑さ等もあり、受験希望者減につながった。短大離れ、保育離れの風潮に拍車がかかり、今後も短大の生徒確保は難しくなると考えられる。特待生(奨学生)は、清和大学が4名、短大が6名であった。</p>

<p>6、その他</p>	<p>3</p>	<p>①カリキュラムの見直し 特進コースに組み込む形で 進学コースが新設予定。それら に伴い、教務部主導でカリキュ ラムの再編中</p> <p>②進路研究について 8月に看護医療系ガイダンス、 7月に3年生の進路ガイダンス、 12月、3月に2年生の進路ガイダ ンス、2月に1年生のガイダンス および保護者対象ガイダンスを 実施。 (変更、中止のものあり)</p> <p>③教職員の進路指導研究について 6月に3学年担任の研修、11月に 2学年担任の研修を実施。</p>	<p>①カリキュラムの編成に 関しては、学習指導要領 の改訂と入試制度改革と 連動し教務部中心に実施。</p> <p>②進路研究について、今年 度は、1年生や2年生のガイ ダンス、看護医療の面接 指導など、外部業者を導入 して、初めての試みとなる ガイダンスを実施。特に看 護医療に関しては、効果が あったと思われる。今後も 要望を吸い上げて、適切な 時期、内容を鑑みて積極的 に進めていく。</p> <p>③2度の教員研修を実施 したが、3年生は進路指導 が目前に迫ったこともあり、 ほぼ全員の担任が参加。 2年生の担任の場合は 試験期間中ということで、 半数ほどの出席者に留ま った。</p>
--------------	----------	--	--